

3. ポスターセッション

オーソドックスな壁に貼られたポスターで発表を行う形で、2日に渡ってポスターセッションを行いました。全参加者のおよそ半分が発表を行った。過半数の参加者が修士一年生ということもあり、話し手と聞き手の距離が近く、会場では学会とは異なりいたるところで白熱した議論がなされていました。専門外との交流も多く見られ、またセッション時間外でもポスターを用いての活発な議論が行われました。

6つの分野(量子情報・光物性、磁性、超電導、強相関電子系、生物物理・ソフトマター、統計力学)に別れ、分野ごとに7~9名が決められた時間での口頭発表と質疑応答を行った。専門分野に近い学生だけでなく、専門外の学生からも多くの質問がなされ、さらに企画終了後も継続して議論がなされるなど活発な意見交換がなされました。



左図：実際の授業風景



右図：ポスターセッションの様子

4. フリーセッション

昨年度第62回から導入されたフリーセッションが、今年も開催された。フリーセッションは本夏の学校のあらかじめ決められたプログラム外での議論も、活発に行いたいとの声が多かったため設けられたプログラムです。会場では他の人の発表を聞き、自分の研究に活かせるのではないか?と考えた多くの人が個々人でアポを取り議論を行うなどより自由な意見交換が行われておりました。多くの参加者が一堂にし、様々な発表・議論を行った。ポスターを用いた議論、口頭発表のより深い議論などに加え、フリーセッションに向けた個人企画を用意してきた参加者も見受けられ、会場は活気に包まれていました。

5. 座談会、懇親会

交流の機会として座談会・懇談会が行われた。座談会においては、参加者から募った質問が講師に投げかけられ、普段は聴きづらい話題について交流が行われました。日常的な悩みから、研究における悩みに至るまで、参加者にとっての目標でもある講師の意見を伺うことができました。会場からも追加で質問がなされるなど大いに盛り上がった。懇談会では一方、講師と学生の対話や、学生間の議論も行われた。懇談会の時間に研究内容に関する議論を継続している姿も見られ、交流の場にとどまらない時間となりました。

6. 総括

物性物理分野に関連する多くの若手研究者が一堂に会して、議論、交流ができる貴重な機会になったと考えられました。実際、参加者の多くからそのような感想をいただき、また普段他の大学の集中講義等に参加しない人には今後参加するきっかけに、地理的な理由で参加できない人には様々な分野ふれる機械になったという声をいただき参加者の方々も満足いただけたようでした。また今年は今話題の Youtuber、予備校のノリで学ぶ「大学の数学・物理」(通称:ヨビノリ)のたくみ氏にも参加いただきました。これを気に全国の物性物理を学ぶ様々な方に夏学を知っていただき足を運んでいただく機械になればと思っております。(実際の様子もぜひ QR コード、リンク先の youtube の動画よりご覧ください。)



